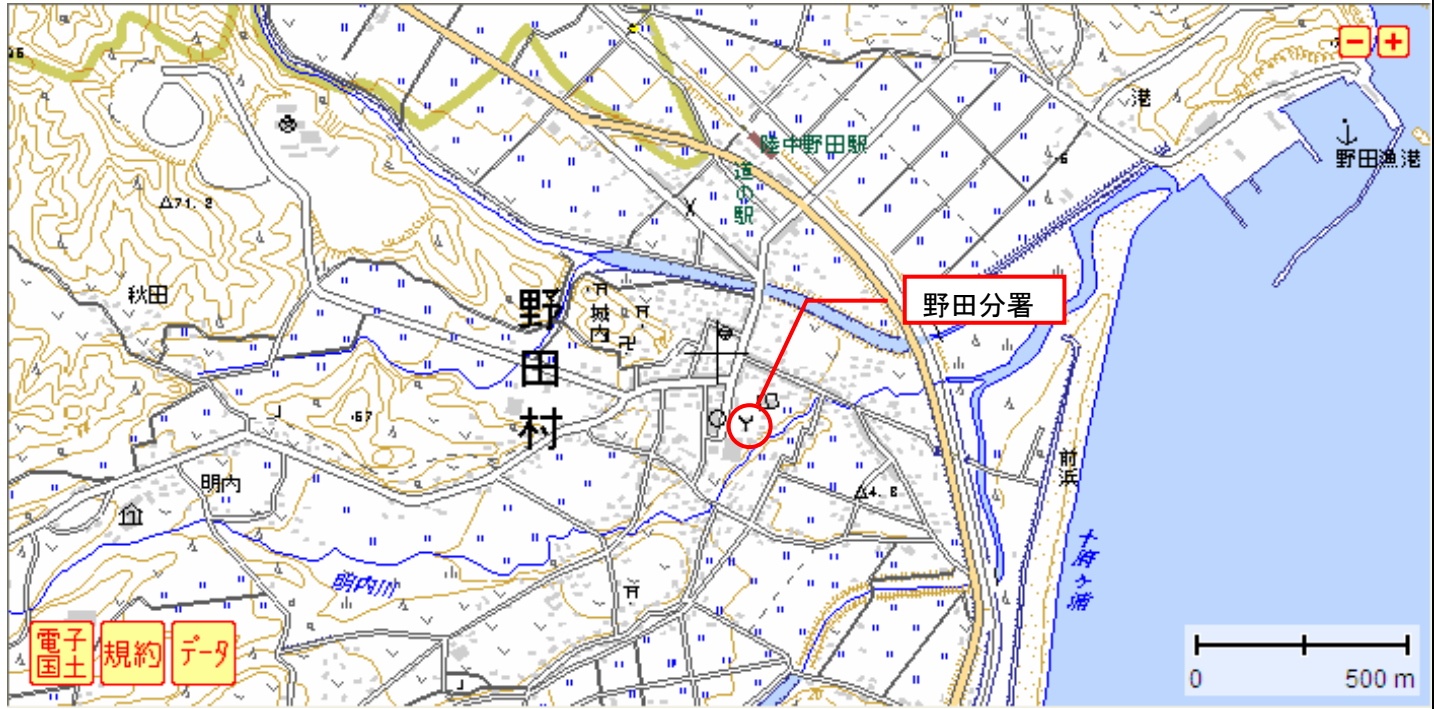


東日本大震災 消防署所の活動及び被害状況に係る調査票
 (死者・行方不明者が発生した太平洋に面した消防本部を対象)

調査日：平成 23 年 4 月 20 日

消防本部名	久慈広域連合消防本部	構成職員数	136 名 (H21.10 調)
構成市町村	久慈市、洋野町、野田村、普代村	構成署所数	1 消防署 5 分署
調査署所名	野田分署 (所在地：野田村)	庁舎職員数	15 名

調査対象の消防署所位置 (仮庁舎の場合は、被災した庁舎と仮庁舎両方)



○庁舎外観

庁舎の全景写真 1



野田分署全景。右側が野田村役場。左側の住宅等が損壊している。当時、1階の車庫の天井まで浸水した。

庁舎の全景写真 2



野田村役場 (右側) と野田分署 (左側)

○庁舎周辺の様子

庁舎周辺の写真 1	庁舎周辺の写真 2
 <p data-bbox="89 792 778 878">野田分署屋上から海岸方向を望む。住宅等の建物が損壊している。一部全壊を免れている建物も見られる。</p>	 <p data-bbox="813 792 1500 878">野田分署北側の消防団詰所、車庫が被害を受け、ポンプ車が流された。</p>

○周辺の被害の様子

周辺の被害の様子 1	周辺の被害の様子 2
 <p data-bbox="89 1561 778 1644">三陸鉄道リアス線の惨状</p>	 <p data-bbox="813 1561 1500 1644">野田分署屋上から見た生涯学習センター等の建物被害状況</p>

周辺の被害の様子 3	周辺の被害の様子 4
 <p data-bbox="172 745 598 779">野田分署付近から海岸方向を望む</p>	 <p data-bbox="954 745 1276 779">野田村（瓦礫一時集積所）</p>

その他、特筆すべき事項（例：消防団、他消防本部、警察・自衛隊など他機関との連携など）
<ul style="list-style-type: none"> ・国道 45 号線沿いにある道の駅「陸中野田駅」を過ぎると、突然左右に瓦礫の山の風景が見られる。三陸鉄道リアス線は、この先の線路が流されている。津波の威力を感じる。 ・分署周辺には、野田村役場や生涯学習センター等がある。 ・野田分署長（中居司令）の証言によれば、震災当日、津波警報が出たので、水門を閉めに行った。まもなく右側の方（玉川漁港？）と左側の方（野田漁港？）に波が見えた。そのうち、右側の方の波がもの凄く大きくなったので、これは大変と思い近くの屯所（消防団詰め所）に声を掛け、ポンプ車で避難した。避難の際、道路は車と人々で混雑していた。 ・周辺の被害状況は、分署の東側に公園があり、その東側（海岸方向）の住宅等の損傷が著しい。 このため、分署周辺で 15 人の遺体が発見された。 ・分署の被害は、1 階の車庫の上部まで（約 3 m 位）水が浸かり、窓ガラスも損傷している。 ・分署北側の道を挟んだ場所に消防団の屯所があったが、建物が破壊されている。ポンプ車も流されたらしい。車庫内の時計が 15 時 15 分で停止している。 ・デーリー東北新聞社によれば、「11 日午後 3 時半すぎ、村民の運命は変わった。村や住民らによると、襲来した津波は、高さ 8 m の防波堤を乗り越えた後、防潮林をなぎ倒し、国道 45 号線を越えて一気に流れ込んだ。住宅を破壊しながら押し寄せる津波は、海から 1 ㎞ 離れている野田地区の中心にまで到達した。 近くを流れる宇部川は、河口から野田橋までの約 600m が家屋の残骸で埋め尽くされた。通りには、泥まみれとなった車や家具も横たわり、村役場の玄関は車と家屋でふさがれた。全壊を免れた建物には、壁の高さ約 3 m の部分に津波の痕跡が残されていた。」と、当時の状況が詳しく書かれている。